

お客様の お宅 拝見！



陽のあたる場所

浜松市浜北区 S様邸

山風が空気を浄化し、抜けるような青空が広がる浜松市北部、黒を基調としたスクエアな外観とソーラーパネル葺きの屋根。まるで工業製品のようなストイックな佇まいのS様邸。

「バイクをいじれる土地を探して、この地に辿り着きました。」とご主人。浜松市中心部から郊外への引っ越しです。敷地は、母屋とバイク専用のガレージと整備スペース、そして十分な広さの庭。市街地の利便と引き換えに手に入れた理想郷です。母屋に案内頂き、玄関ホールを抜けると、小上がり仕立ての和室が組み込まれた大空間リビングが広がります。フラット対面キッチンと、ロングスパンの食器棚がダーク系の色調と相まって、端正な佇まいを見せています。「住む事に関係ないスペースは極力カットしました。廊下がないのもその為です。」とご主人。「図面を何度も何度もやり取りし、ムダなスペースを排除しました。」

ご主人は根っからのエンジニア。理工系の発想で家づくりをすると、家はこんなに端正になるんだと発見しました。「おしゃれっぽくない家がコンセプトです(笑)。」とご主人。「ウッディでほんわかした家」とは全く逆のベクトルの家にしたかったんです。」奥様はそれで良かったんですか？とお聞きすると、「まったく問題ありません。外観を黒基調にしたかったのは私なんです。内装のテイストも私の担当です。」「キッチンの色も確定直前に黒系に変更しましたが、正解だったと思います。」と、お二人で楽しみながら家づくりをされた様子が伺われます。



小上がり仕立ての和室

S様お気に入りの2階 フリースペース

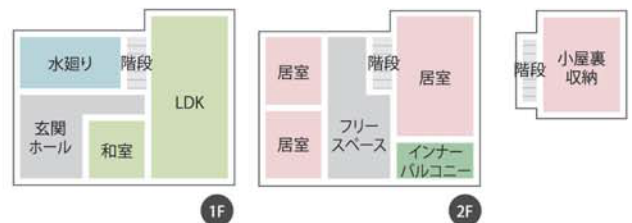
今回の家づくりの思い出をお聞きすると、「平面図が地縄になり、地縄を見ると『小さいなあ』と思っていたものが、立体になると大きくなっていく感じがして…、そのプロセスをワクワクしながら楽しみました。」と奥様。「プラン作りなどに自分も関与できるのがいいですね、『自分の家を建ててるぞ』という感覚が強まります。でも壁紙は担当の人に任せた方がいいかもしれません、そこまで気が持ちませんから…」とご主人。



黒を基調としたキッチン、和室へとつながる大空間リビング

実はS様、住まいの完成とご長男の出産が同時期になり、ご主人ひとりであれこれ大変だったそうです。「子供も落ち着いて来たので、そろそろバイク仲間を呼んで、庭でバーベキューでもやろうかと思っています。これから、この土地とこの家を満喫するんです。」とご主人。この家の慣らし運転もそろそろ終了といった所でしょうか…

最後にこの住まいの最もお気に入りの場所は？とお聞きすると、意外にも「2階のフリースペースです」とのお答え。デッドスペースがほとんど無いこの邸宅の「唯一、機能的ではない空間」です。四季の移ろいが明確に感じられる郊外で、時に北風に立ち向かい、時に夏の日差しを満喫する。まるで、バイクの様な力強さとしなやかさを兼ね備えたS様邸でした。



別棟のバイクガレージ